

Twinkle No.13 2018.02.01

川崎こどもクリニック附属病児保育室リトルスター <http://www.kawasaki-kc.jp/littlestar.html>

〒597-0102 貝塚市木積 607-10 TEL/FAX 072-446-0415 little-star@kawasaki-kc.jp

くすりの話⑦ 抗インフルエンザ薬

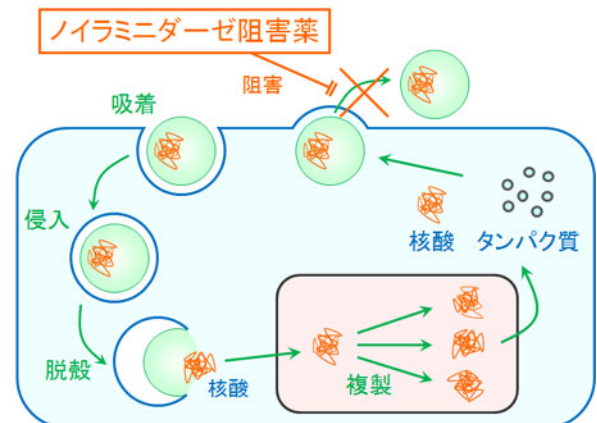
現状市販されている抗インフルエンザ薬（以下抗 Flu 薬）は、カプセルや粉末を内服するタイプのタミフル®、微細な粉末を吸入するリレンザ®やイナビル®、そして点滴で使用するラピアクタ®があります。これらの抗 Flu 薬はインフルエンザウイルスを破壊するのでしょうか。いいえ、そうではありません。

インフルエンザウイルスはその表面にあるヘマグルチニンという蛋白により気道表面の細胞に付着して侵入し、細胞内部でウイルス自身の遺伝子（核酸）をたくさん複製します。それらは細胞の表面で再びウイルスの粒子となって、ヘマグルチニンを介して細胞にぶら下がった状態となります。最後に、ウイルス表面にあるノイラミニダーゼという酵素がヘマグルチニンと細胞表面の間の結合を切り離して、ウイルスは飛び出していきます。そして、他の細胞や他の人に感染します。

先にあげた4つの抗 Flu 薬はすべてノイラミニダーゼの働きを邪魔することによって、ウイルスの広がりを抑制する薬です。広がりを抑制するわ

けですので、既に大幅にウイルスが広がっている状態（発熱から48時間以上たっているなど）では効果は乏しいものになります。また、予防投与として使用されることもあります。ウイルスが入ってくるのを防いでいるわけではないので、100%予防できるというものでもありません。

現在、ウイルスに遺伝子の複製をさせないようにする新しい抗 Flu 薬の開発も進んでいます。これは近い将来くるかもしれない新型インフルエンザの大流行への備えとして期待されています。



<https://kusuri-jouhou.com/medi/virus/zanamivir.html> より

隠れインフルエンザを考える

最近、ワイドショーなどでも「隠れインフルエンザ」という言葉が飛び交っています。「昔はそんなものはなかったが、今年は隠れインフルエンザが流行していて、微熱でも早く診断してもらわないとえらいことになる」というような話で、過剰に心配される保護者の方も居られます。本当にそうでしょうか。

インフルエンザの迅速診断ができるようになって20年程です。それまではインフルエンザとは冬に流行する高熱が出て非常に辛い病気であるという認識でした。ところが迅速診断ができるように

なって、微熱のインフルエンザがあることが知られるようになりました。そのような症状の軽いインフルエンザは、他人への感染力はあると思われませんが、かかっている本人はそれほど辛いわけでもありません。当然抗 Flu 薬が必須となるわけでもありません。自分があるいは子どもがそういう状態になった場合に、病院に早く連れて行って早く薬をもらうことが必要なわけではありません。本当に必要なのは自身の体調回復と他への感染予防のため、自宅でゆっくり安静に過ごすということだと考えます。